# 中川区歴史に学ぶ 防災マップ 解説

（地名表記は、原則として災害当時の地名です）

## 濃尾地震における中川区・中村区の主な村の被害

『明治24年（1891年）10月28日濃尾地震の震害と震度分布』より
※数値には複数説があります。

| 村名 | 人口（人） | 戸数（戸） | 死者（人） | 全壊率（%） |
|---|---|---|---|---|
| 下之一色村 | 5,201 | 1,089 | 44 | 73.5 |
| 一柳村 | 1,713 | 372 | 1 | 40.1 |
| 御厨村 | 1,440 | 313 | 4 | 9.0 |
| 松葉村 | 2,423 | 526 | 5 | 13.7 |
| 荒子村 | 不明 | 255 | 4 | 45.5 |
| 岩塚村 | 1,254 | 256 | 3 | 32.4 |
| 柳森村 | 1,388 | 252 | 3 | 30.2 |
| 笈瀬村 | 3,017 | 634 | 8 | 13.3 |

## 解説編の見方・要点

- 年表は、中川区関連の災害や河川についてのできごとです。南海トラフ地震が100年～150年置きに発生していることや津波や液状化が起きていることがわかります。
- 写真や図などにより、伊勢湾台風を中心に過去の災害の被害がわかります。伊勢湾台風では、区南西部が長い間浸水していたことがわかります。
- 被災当時の貴重な記憶を伝えるため、お二方の体験談を掲載しました。

## ◎ 濃尾地震と中川区

### ❶被害を受けた海東郡万須田村の万場大橋

『明治24年（1891）年10月28日濃尾地震の震害と震度分布』より

濃尾地震は、1891（明治24）年10月28日午前6時38分に岐阜県本巣郡根尾村を震源として発生した国内最大級の内陸地震です。2府12県の広範囲で、死者7,880人、全壊建物164,611棟、半壊建物123,158棟という甚大な被害が出ました。愛知県では2,638人が亡くなりましたが、うち名古屋市では187人（人口約16万5千人）、愛知郡では152人（人口約12万3千人）、海東郡では289人（人口約8万4千人）となっています。区内は震度7の揺れに見舞われたと推定され、下之一色村では液状化現象も見られました。

庄内川では堤防の多くに被害が出ました。写真では万場大橋が大きく歪んでおり、揺れの大きを物語っています。

## ◎ 三河地震と中川区

### ❷荒子観音寺

提供：荒子観音寺

三河地震は、1945（昭和20）年1月13日午前3時38分に三河湾を震源として発生した内陸地震です。区内では荒子観音寺の本堂が倒壊しました。写真はその後再建中の仮本堂です。

## 中川区　災害と河川の関連年表

＊江戸時代以前の月の表記は西暦を基準にしています。

| 年代 | 主なできごと |
|---|---|
| 1586（天正13）年 | 1月18日 天正地震．飛騨もしくは尾張を震源とする巨大内陸地震.名古屋の震度は6～7と推定． |
| 1707（宝永4）年 | 10月28日 宝永地震．名古屋の震度は5～6と推定．名古屋城の建物が大きく損傷． |
| 1768（明和5）年 | 庄内川の付け替えにより、前田村から下之一色村付近の河道が変更． |
| 1787（天明7）年 | 新川の開削工事が完成． |
| 1854（嘉永7）年 | 12月23日 安政東海地震．名古屋の震度は5～6と推定．熱田に津波が来襲．<br>翌24日、安政南海地震．名古屋の震度は5と推定． |
| 1891（明治24）年 | 10月28日 濃尾地震．内陸地震としては国内最大級．震源は岐阜県根尾村．名古屋市の震度は7と推定．下之一色村で家屋被害率が70%を超えるなど大きな被害が発生.⇨写真❶ |
| 1930（昭和5）年 | 中川運河完成（全通は1932年）． |
| 1937（昭和12）年 | 10月1日 中川区誕生．（面積21.15km²人口73,000人） |
| 1944（昭和19）年 | 12月7日 東南海地震．震源は紀伊半島沖．愛知県では死者438名．中川区でも死傷者や家屋倒壊など大きな被害．中川区では下之一色地区を中心に液状化現象が発生． |
| 1945（昭和20）年 | 1月13日 三河地震．震源は三河湾．愛知県の死者2306名．名古屋市の震度は4～5と推定．中川区では荒子観音寺の本堂が倒壊．37日前の東南海地震に誘発された地震と推定．⇨写真❷ |
| 1955（昭和30）年 | 10月1日 富田町を中川区に編入．（面積32.01km²人口111,722人） |
| 1959（昭和34）年 | 9月26日 伊勢湾台風．台風として明治以降最大の犠牲者が発生．中川区では約11万人が被災し、死者20名.⇨写真❸～⓭ |
| 2000（平成12）年 | 9月11日 東海豪雨．名古屋市の37%が浸水．最大日降雨量428mmを記録し、約350年に1度の大雨となる．⇨写真⓮ |

※［　　］は南海トラフで発生した大地震です。

## ◎ 伊勢湾台風と中川区

### ❸伊勢湾台風後の富田町伏屋橋付近

### ❹正徳橋

### ❺木が散乱する豊治小学校

正徳橋は庄内川にかかる人道橋です。伊勢湾台風により寸断されてしまいました（写真左）。新川西側堤防が決壊したため、豊治小学校には大量の水が流入しました。校舎の屋根が吹き飛び、教室内も泥の海と化しました。休校は11月12日まで続きました（写真右）。

### ❻近鉄線 伏屋駅・戸田駅間

### ❼水没した戸田駅

### ❽富田中学校

### ❾戸田小学校周辺の民家

富田地区は浸水の被害が大きく、移動には舟も用いられました。

### ❿長良中学校

### ⓫水のたまる八熊通

### ⓬昭和橋中学校

校舎には大きな被害はありませんでしたが、浸水は床下ぎりぎりに及びました。児童の95%が被災したため、他の学校同様に児童の精神面でのケアも大きな課題となりました。

### ⓭松葉公園の被害

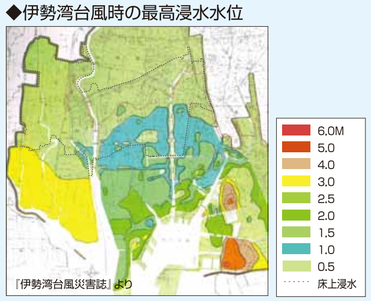
1959（昭和34）年9月26日、夕方に紀伊半島に上陸した極めて大型で強力な台風15号は、名古屋地方に最悪のコースをたどり、名古屋港の潮位は観測史上最高の5.31mを記録しました。河川の増水と高潮が重なり、多数の堤防が決壊し、南区・港区を中心に本市南部に甚大な被害をもたらしました。中川区と名古屋市の被害は次のとおりです。

- 死者・行方不明者 20名（本市 1,909名）
- 負傷者 4,903名（本市 40,528名）
- 全半壊流出家屋 2,395戸（本市 50,972戸）
- 浸水家屋 17,824戸（本市 67,352戸）

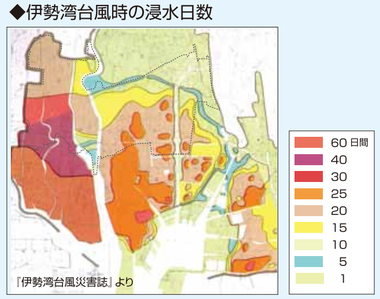
幸いにも庄内川の堤防は守られたため、中川区では南区・港区ほどの被害は防ぐことができました。しかし、新川西側の堤防が決壊したため、当時の豊治学区・戸田学区・千音寺学区では大きな被害が出ました。最大で床上浸水150cm、浸水期間は46日に達しました。また、中川運河沿いでは、高潮の影響で、浸水が最長で25日間続きました。

残念なことに区内では20名が亡くなりました。しかし、南区・港区と比べると被害が抑えられたのは、海岸から離れており浸水水位が比較的低く、また避難時間に多少余裕があったためと考えられます。

◆伊勢湾台風時の最高浸水水位




◆伊勢湾台風時の浸水日数




## ◎ 東海豪雨と中川区

### ⓮一色大橋

『忘れない、東海豪雨』より

2000（平成12）年9月11日、東海地方は秋雨前線による猛烈な集中豪雨に襲われ、名古屋市では1日で、9月の平均月間雨量の2倍にあたる428mmの雨が降りました。このため庄内川・新川・天白川・境川・矢作川で浸水被害が発生しました。

区内を流れる新川は上流の西区で左岸堤防が決壊し大規模被害が発生しました。庄内川は区内の一色大橋の下流右岸で越水しましたが、懸命な防水活動で拡大は食い止められました。区内では床上浸水275世帯、床下浸水2,766世帯の被害が出ました。

## 東南海地震（1944年）と伊勢湾台風（1959年）の体験談

### 荒子の寺西克己さん

東南海地震の時は小学1年生でした。荒子観音寺から200mの大門の南端にあった火の見櫓の脇で友達と紙芝居を見ていると、大きな地震が来ました（発生時刻は午後1時36分）。紙芝居屋さんが道のそばの生垣に誘導してくれましたが、揺れで思うように歩けません。かたわらに立っていた石の常夜灯は倒壊、足元に転げ落ちて非常に危険でした。家では壁が崩れ土ぼこりが立ちこめていました。その夜は余震を心配した祖父母に「納屋で寝なさい。納屋はトタン屋根だから大丈夫」と言われました。1891（明治24）年の濃尾地震体験を思い出したのかもしれません。

伊勢湾台風の時は大学生で、風雨が強く室内に水が入って来ました。幸い昔からの集落にある自宅は浸水を免れましたが、後に開発された周辺地域は浸水していました。自転車はペダルまで水に浸かってしまうとこぐのが非常に大変で、乗るのを諦めなければなりませんでした。

### 戸田の横井米子さん

9月26日の台風の夜、表に出ると下駄が水に浸かってしまい、これは大変だと、小学生の子ども達を起こして2階に避難させました。私の家は床上30cmぐらいの浸水ですみましたが、家の前の通りは川のようになり、なかなか水が引かず、しばらく小舟で通行しなければなりませんでした。戸田小学校が浸水したため、子ども達はしばらく市内の別の小学校に泊まり込みで集団避難していました。今でも家の壁には浸水の跡がはっきりと残っています。

## ☆各機関の災害資料や地図などを気軽に活用しましょう！

- 名古屋市中川図書館　中川区吉良町178番地の3 ☎052-353-5311
- 名古屋市富田図書館　中川区服部三丁目601番地 ☎052-432-5313
- 名古屋市鶴舞中央図書館　昭和区鶴舞一丁目1番155号 ☎052-741-9822（2階）
- 名古屋市南図書館（伊勢湾台風資料室）南区千竃通2丁目10番地の2 ☎052-821-1732
- 名古屋都市センターまちづくりライブラリー　中区金山町一丁目一番一号 ☎052-678-2212
- 名古屋市港防災センター　港区港明一丁目12－20 ☎052-651-1100
- 愛知県図書館　中区三の丸一丁目9－3 ☎052-212-3200（調査相談）
- 愛知県公文書館　中区三の丸二丁目3－2愛知県自治センター7・8階 ☎052-954-6025

## ☆主な参考資料

『明応地震・天正地震・宝永地震・安政地震の震害と震度分布』（愛知県防災会議）、『今も生きる、濃尾地震』（社団法人中部建設協会）、『明治24年（1891）年10月28日 濃尾地震の震害と震度分布』（愛知県防災会議地震部会）、『濃尾地震文献目録』（愛知県防災会議）、『昭和19年12月7日東南海地震の震害と震度分布』（愛知県防災会議）、『昭和20年1月13日三河地震の震害と震度分布』（愛知県防災会議）、『戦争に隠された「震度7」』（吉川弘文館）、『伊勢湾台風災害誌』（名古屋市）、『伊勢湾台風災害誌　名古屋市小中学校（中川区）』（名古屋市）、『生物多様性2050なごや戦略』（名古屋市）、『庄内川流域史』（建設省中部地方建設局庄内川工事事務所）、『忘れない、東海豪雨』（社団法人中部建設協会）、『日本歴史災害事典』（吉川弘文館）、『新修名古屋市史第8巻（自然編）』（名古屋市）、『新修名古屋市史　資料編自然』（名古屋市）、『中川区史』（中川区政施行50周年記念事業実行委員会）、『なごやの町名』（名古屋市計画局）、『名古屋の地名』（中日新聞本社）、『日本歴史地名大系　第23巻（愛知県の地名）』（平凡社）＊マップ中の説明のない写真は名古屋市が所蔵しています。

＊マップ中の説明のない写真は名古屋市が所蔵しています。

問合せ先　名古屋市中川区役所総務課 ・ 名古屋市中川図書館
◎中川区役所 名古屋市中川区高畑一丁目223番地　電話052-363-430
◎中川図書館 名古屋市中川区吉良町178番地の3　電話052-353-5311
名古屋市中川区役所総務課・名古屋市中川図書館／編

平成29年3月発行

この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。